

# 日本の小学生のみなさまへ

～2018年6月1日 ワールド・ミルク・デイに寄せて～

皆さんこんにちは。私は、国連食糧農業機関の駐日連絡事務所の  
ンブリ・チャールズ・ポリコ (Mbuli Charles Boliko) と申します。

国連食糧農業機関は、FAOとも呼ばれている国連の専門機関のひとつで、  
世界の中で食べ物が不足し、飢餓で苦しんでいる国や地域を支援する  
仕事を行っています。

皆さんは知っていますでしょうか。日本では、毎日ひとり当たりお茶碗1杯分の食べ物を  
棄てていると言われていています。皆さんが残したり捨ててしまったりする食べ物を、  
毎日お腹を空かせ、飢えで苦しんでいるよその国や地域の子も達がみたら、  
どのように思うでしょう。

6月1日は「World Milk Day (ワールド・ミルク・デイ)」です。  
「World Milk Day」は、世界の多くの国の人々が、栄養豊富な食品としての  
ミルクへの関心を高め、生産する酪農乳業の仕事の大切さを知ってもらうため、  
FAOが世界的なミルクの記念日として定めています。

皆さんにお願いがあります。この記念日をきっかけに皆さんが、  
毎日の給食で飲んでいるミルクを「大切に思う気持ち」を持ってください。  
そして他の食べ物も大切に思う気持ちを持ってください。  
また、「食べ物を無駄にする」とどうなるか、「食べ物を大切に使う」とは、  
どのような行動をとれば良いのか、お家や、学校のみなどと話し合ってみてください。

「食べ物を大切に思う気持ち」と、それを身近なくらしのなかで行動にあらわす  
一人ひとりの行動こそ、世界の国や地域の人たちの深刻な  
食べ物が不足する問題の解決にも繋がっていきます。

国際連合食糧農業機関駐日連絡事務所  
所長 **ンブリ・チャールズ・ポリコ**

